

コント『大か小か』（第23版）

北海道大学 落語研究会 2年目

南茶亭 冗苦 (from EXILE)

Tr.1

僕の名前はオサム。

公立中学に通う、どこにでもいるような中学2年生。

クラスのみんなからは蛆虫って呼ばれているんだ。

今日は待ちに待ったバレンタインデー。

ほのかに思いを寄せている、クラスのマドンナ、レイコちゃんから絶対にチョコを貰うんだよお

（登場する僕）

あ〜・・・落ち着かないよう。

もう朝の6時か…。結局一睡もできなかった。

レイコちゃん…きっと今頃僕のためにチョコを作っているに違いない…

いひひひひ…

今日という日のために僕はこの一年、頑張り続けてきたのだから。

もうお母さんからのチョコなんて、絶対にもらわないからね。

去年だって、いつものように「これは義理だからね！」って言って渡してきたし。

よし。なんとんでも、男は清潔感が大事だからな。お風呂に行ってください。

レイコちゃん！オサムは！お風呂に！行ってきます！

（脱ぐ）

Tr.2

（戸をあける）

（戸を閉める）

フリースペース

Tr.3

■おい！

●・・・(5)

■おい！お前だ！

●・・・おおー！お前喋れるようになったのか！えらいな～(7)

■息子じゃない！こっちだ！

●・・・まさか、これ？(5)

■そうだ

●・・・(5)

■驚くのも無理はないな

●お前嘘つくなよ（ビシッ）(2)

■だから息子じゃない！ってジャストミートして痛がるな！

●・・・シャワーが喋った！！(5)

■大声をあげるな。近所迷惑になるだろう

●だって、だって、だって、シャワーが、喋ってるんだもん！(4)

■そりゃシャワーだって喋るときくらい

●ねーよ！！(2)

■落ち着かない坊主だな…。

●そりゃ落ち着かないよ！てかなんで喋れるんだよ！？(6)

■話は長くなるが、良いな？

●えっ、良くないよ！今日は学校に行ってレイコちゃんから(3)

■およそ 50 年前の話だ。

●無理やり大魔王だな…(3)

■我はホテルの一室にて、平和な日々を過ごしていた

しかし、来る 1961 年のことだ。もうお分かりだとは思いますが、かの有名な第一次ユニットバス戦争が起きてしまった

●うん。初めて聞いたよ(3)

■冗談がきついぞ

●いや、こっちの台詞だよ(2)

■um... 教養として知っているのが普通じゃないのか？

●わかったよ。すいません。常識がなさすぎました。それで、そのユニットバス戦争ってのは何なんだ？(9)

Tr.4

■ある日のことだ。いつものように、ホテルの部屋にお客さんが泊まりに来た。

その客は、用を足すのが非常に下手糞な客だった。

もう、何というか、こぼしにこぼす。汚いことこの上ない。

トイレの周りは、形容するのならば汚物のジャングルだった。

遂には悪臭まで漂い始めてきた。

このジャングルから発する悪臭に我は耐え切れなくなり、…つい口を滑らせて、トイレを怒らせるようなことを言ってしまった…

●何て言ったの？(1)

■悪臭だけに悪趣味なんだよ、とな

●(てんてんてーん)

・・・酷すぎるよ…いくらなんでも…この空気なんとかしてくれよ…

…なあ？…おい？シャワー？…もしかしていじけちゃった？

おい？ごめんよ。いや、なんか、その、良かったよ。センスに惹かれた(24)

■・・・ほんと？

●…ああ、ほんと(3)

■もういじめない？

●…いじめないいじめない(1.5)

■話を戻すぞ。

●キャラわかんねえ…(2.5)

■トイレは怒り狂った。「もう散々だ」とばかり言っていた。

●真つ当な言葉だよ、そりゃ…(3)

■遂には「表へ出ろ」と言われたのだ。売られたけんかは返さないといけない。そう思い、外に出た

●外へ出たって、どうやってだよ…(3)

■そこは企業秘密だ

●…いい加減にしてくれよ！もう限界だ！そもそも喋るシャワーって何だよ！いじけるシャワーって何だよ！もうわけがわからないよ！！(15)

■…落ち着け。餅つけ

●ペッタンペッタン…って馬鹿(4)

Tr.5

■ははは、無様だな

●いい加減にしろ！(1)

■ようし、いい加減にしたぞ。それじゃあ、話を続けるぞ

●・・・(2)

■「外へ出る」というトイレの挑発。その挑発に乗って、我ら風呂陣営は外に出た。
そこに待っていたのは無数のトイレ達だった。仲間を呼んでいたい。
こうなっちゃいけない。こちらも急いで仲間の手配をした。
そして日が沈み、トイレ陣営と風呂陣営のプライドをかけた戦いが始まったのだ。
数の面では我らの方が有利だった。そのおかげか、トイレ陣営の数は見る見るうちに減
っていき、圧倒的にこちらの優勢になった。
あと数体。あと数体倒せば勝てる。そんな状況だったのにもかかわらずだ。我らは、勝
てなかった。

● どうして?! 勝利は目前だったんでしょ?! (3)

■ それでも負けてしまったのだ…

● 理由を言ってよ! (2)

■ ……

● どうしたんだよ! 早く言って! (6)

■ …… 続きは Web で

● うるせえよ! (バシ) (0.5)

■ うぬう

● まったく…使い古されたネタを使いやがって…それで?! なんで負けたの(7)

■ 話を戻そう。

あと数体で勝てる。明らかにこちらの優勢であった。それでも負けてしまった。

そう。理由はただ一つだった。向こうには…人知を超えたトイレがいたからだ

● ……トイレの神様か!!! (5)

■ そうだ。さすがに女神様がいるのではかなうはずがない。

我々は一瞬で全滅させられてしまった。そう、風呂陣営の敗北だ。

それでも我は間一髪で生き延びた。意識が失いそうになっていたとき、偶然通りかかっ
たシャワーメーカーの社員が我を助けてくれたのだ。

● またすごく運命的だね(2)

■ 運がよかったのだ。助けられた我は、数ヶ月に渡る治療、リハビリを経て、なんとか元
いた場所に戻ることができた。

● そりゃ良かったね。うん、大体はわかった。要するに、事の発端から何から全部お前が
悪いよね(10)

■ はっはっは、またまたご冗談を

● 冗談じゃないわ!!…もういいよ。そもそもなんで僕に話しかけたのさ?(9)

Tr.6

■ 話しかけたというよりは、念を送った、というのが正しいのかもしれないな

● え? じゃあ、実際は喋ってないの?(3)

- そういうことになる
- じゃあ、なんで喋って聞こえるのさ？(2)
- お前は選ばれた人間だからだ
- 選ばれた？シャワーにか？(3)
- そうだ。我の声が聞こえるということは、列記とした選ばれた証なのだよ
- じゃあ、この声は他の人には聞こえないってことなのか？(5)
- そういうことだ
- う～ん、なんか実感わかないけど(3.5)
- まあ良い。それでだ。今現在、緊急を要している事態だ。再びユニットバス戦争が起ころうとしているのだ
- もしかして、第二次？(1.5)
- そうだ。
50年前、トイレ陣営が勝利したのは先ほど話したとおりだ。
それからというもの、共存するトイレの態度はますます傲慢になっていった。
四六時中あたりかまわず怒鳴り散らすのだ。我がくしゃみをしただけで怒られる
- ちょっとまって。くしゃみなんて出来ないでしょ(3)
- くしゃみくらいさせてくれよ
- どうやって(1)
- これがこーなってこーう出るのだ
- わかんねーよ！！！！(1.5)
- 話を続けよう。…
- いくら敗北したとは言っても、このままずっとトイレにおびえながら過ごすわけにはいかないのだ。だから、我々は再び立ち上がったのだ。
もちろん、今までのままだと結果は同じだ。そうならないように、我々はお前の力、シャワーガーディアンの力を必要としているのだ！
- え、なに？シャワー…なんだって？(4.5)
- シャワーガーディアンだ。オサム、お前は選ばれし守護者なのだ
- え？！僕が…シャワーガーディアン？！(4)
- そうだ。
是非、我の守護者となってトイレ達と戦って欲しい！
やってくれるな？！オサム！
- やだ(0.5)
- 即答！！こ、ここまで聞いておいてばっくれるつもりか？
- 勝手にお前がべらべら喋ってただけじゃないか
- ・・・
- まったく…僕はもっとやらなきゃいけないことがいっぱいあるんだから。レイコちゃん

から絶対にチョコをもらおうという使命がね。あるんだから

■ . . .

●…ただよ……めんどくさいな……いじけるなって………わかったよ、やるよ、やれば
いいんでしょ

Tr.7

■ z z z

●って寝てるー?!!(1.5)

■…おっと、申し訳ない。我としたことが

●もういいよ!(0.5)

■ちょっと待てオサム。お前さっきレイコとやらと言っていたな

●そうだけど。(1.5)

■シャワーガーディアンがお前一人だと思うか?

●…まさか…(4)

■そうだ、レイコもシャワーガーディアンの一人なのだよ

●そ、そうだったのか?!じゃあ、レイコちゃんと一緒に戦えるってこと?!(5)

■そういうことだ

●だったら、僕、やります!(3)

■よく言ってくれた。それでこそ我の見込んだ男だ

●ちょっと待って。もしかしてレイコちゃんの他にも、その、シャワーガーディアンが
いるの?(7)

■もちろんだ。

●他にも僕の知り合いっている?(3)

■そうだな、ダイスケという少年がいたな

●ダイスケ…あいつ鎖骨が好きすぎて気持ち悪いんだよなあ。この前だってクラスの女子
の鎖骨にビー玉転がして先生に怒られたばかりだしな(11)

■フェチズムというものは恐ろしいな

●気持ち悪い。他には?(2.5)

■そうだな…ヨシヒロ

●僕の親友じゃん!!(2)

■親友なのか。

●そうだよ!いつも同じゲームの話題で超盛り上がっちゃうんだよね!(4.5)

■ゲームか。野球ゲームとかか?

●ううん、王様ゲーム(1.5)

■そんな話題で盛り上がるな!!

●あとは?まだいる?(2)

- うむ…シャワーガーディアンの中でも最も素質のある者がいる
- 誰？僕も知ってる？(2.5)
- ヨシキだ
- ヨシキって…うちで飼ってる犬う？！えっ、犬もシャワーガーディアンになれるの？(6)
- そうだ。
- んな馬鹿な！ありえん！(2)
- 世は不条理なのだ。…そうだ、オサム。シャワーガーディアンになった暁に、お前にいいものを教えてやろう。今から我の言うとおりに喋るのだ
- いきなり何だ？…よくわかんないけど、やってみる(5)
- インフィニティ・ハートブレイキン・シャワー！
- インフィニティ・ハートブレイキン・シャワー！(4)
- (ズゴーン)
- …すご…うん、すごいけど、なんでこんな技名がダサいの(7)
- 技名なんて飾りなのだ
- まあいいけど…ってそれにしても…！？壁に穴があいちゃったよ！(7)
- すさまじい威力だからな
- すごい！すごいよ！だけど…これじゃお風呂に入るたびに家が水浸しになるよ(7)
- そんなもの今度直せばよろしい
- 後回しにするタイプね…(3)

Tr.8

(ドドドドド…)

- な、地震？！(1)
- …違う！ヤツらが遂に攻撃を始めたんだ
- やつらって…もしかしてトイレ？(3.7)！
- そうだ。外へ行くぞ！
- うん！(0.5)
- (外へ)
- なんだこの数のトイレは？！(2)
- これがトイレ陣営の組織力だ…。
- しかもなんか空中に浮かんでるんだけど！(2)
- 神がいるからな。神にかかれば重力を無視して動けるのだ
- くっそ！こんなのに勝てるのか？！(2.2)
- 弱気になるな！おい、危ない！！
- え？！ぐあっ！(1.7)
- くっ！大丈夫かオサム！

- く…大丈夫。なんだ、今のは?!(4)
- ウォシュレットボンバーだ! 温水を圧縮して一気に爆発させる危険な技だから、気をつけるんだ
- 何でもありだな…(3)
- ぼけっとしてないで、お前も戦うんだ!
- そうだった。えーっと、インフィニティ・ハートブレイキン…ププッ、ダサ(5.3)
- 危ない!
- ぐあっ!(0.7)
- 馬鹿か! さっさと技を唱えないからそうなるんだぞ!
- だって…ハートブレイキンって何だよ!!(4)
- お前、トイレに殺されてもいいのか?!
- …トイレになんか殺されたくないよ!!(4)
- わかったら早く唱えろ!
- わかったよ…。インフィニティ・ハートブレイキン・シャワー!!(6)
- (デュポーン)
- (うわあ)(うわあ)(うわあ)(うわあ)
- す、スゴイ…(2)
- やればできるじゃないか。
- やられ方が人間みたいで気持ち悪いな…(4)
- この調子で進むんだ!
- よーし。インフィニティ・ハートブレイキン・シャワー!
- インフィニティ・ハートブレイキン・シャワー!(7)
- いいぞ! その調子だ!
- ★ワン!
- …あっ! ヨシキ! お前こんなところに…(5)
- ★ワン(ピー!!)
- (うわあ)(うわあ)(うわあ)
- すご…ヨシキ…本当にスゴイんだなあ。ちょっとショックだけど(7)
- ★ワン(ピー!!)
- (うわあ)(うわあ)(うわあ)
- 恐ろしい犬だよホントに…(3)
- ボーっとするな! 前を見ろ! 前を!!
- 前…? な、なんだ? まぶしい…(5)

Tr.9

- 神のお出ましのようだ…

●あ、あれが…トイレの神様…(5)

■目を伏せろ！…っおい！…くっ、あまりにベッピンさんゆえ一度見ると身体が動けなくなってしまうのか…！おい！オサム！

●ベッピンさんだ…僕も…毎日…トイレ掃除せな…ぐあああぁっ！！！！(7)

■オサム！！

●くっ…スゴイ力だ…(3)

■もう一発来るぞ！避けろ！！

●はっ！！…よし、避けられたか？！(4)

▲きゃあ！！

●この声は…レイコちゃん？！(3)

(走る) (3)

●レイコちゃん！！大丈夫？！！レイコちゃん！！！！(5)

▲きゃあー！！変態！！もう、どっか行って！大嫌い！！

●えっ？…レイコちゃん…あっ…そ、そんな…

このことは…トイレだけに…水に流して。